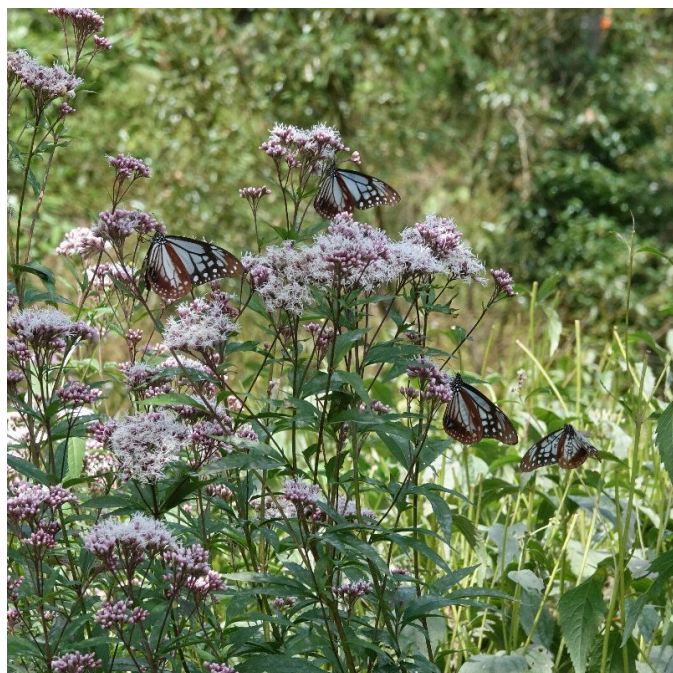


京都西山・大枝のアサギマダラ 2021

調査者:金田 忍・村島 光・松永かおり・田中一広

毎日通って、仲間に助けられて作った小さなフジバカマ花壇ですが、驚くほどの数のアサギマダラがやってきました。とりあえず京都西山のアサギマダラ 2005 の 546 頭を超えるのを目標に標識したのですが、結果は 670 頭でした。十分驚くに足る数字です。



(撮影:中川光博・2021.10.15)

2005 年は、大原野神社・善峯寺・願徳寺 等のご支援をいただいた上に、3 名が走り回っての成果でしたが、今回は京都西山の山腹にある、小さなフジバカマ花壇に毎日通っての**定点調査**でした。しかも、調査期間は 9 月 14 日から 11 月 4 日までの 50 日余りと長期間でした。アサギマダラは、花がないとやって来ないので三種のフジバカマと、ヤマヒヨドリバナを繋いで長期間にわたりアサギマダラを誘引した成果です。

ここで**定点調査**について触れなければなりません。私は 2011 年から 2018 年までの 8 年間、水尾のフジバカマ畑で調査をさせて頂きました。早朝 7 時から、西の尾根に日が沈んでアサギマダラがいなくなるまでの毎日調査です。その結果、色々なことが分かりました。中でも、フジバカマの香りがどのようにしてアサギマダラに届くのか、斜面上昇風の存在を肌で感じる事が出来ました。**定点調査**でないと分からないアサギマダラの生態です。

最近では、facebook で知り合った『岡垣アサギマダ

ラの会』の前原勇司代表から、**定点調査**でないと分からない貴重な観察資料の提供を受けました。同会では 2018 年以降、春は『吉木浜』で保護しているスナビキソウに飛来するアサギマダラの数を実日観察して、気象環境とともに記録に残し、秋は、内陸部『さとランド小局園』のフジバカマ花壇に飛来するアサギマダラをカウントして纏めた表です。

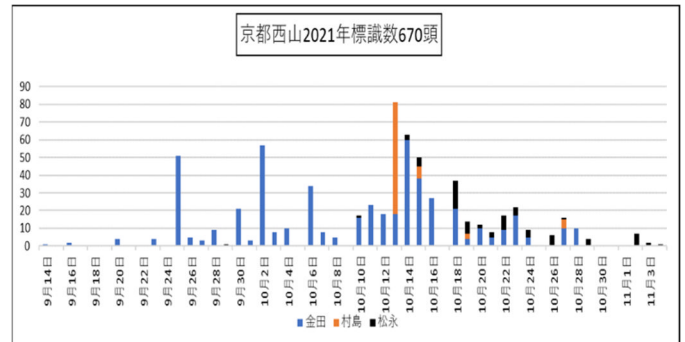
この春の観察表の欄外には、今年は前年の 3.3 倍飛来したと補記されていました。**定点調査**だから言える事であって、本当はどのようなだろうなと思っていたら、秋のフジバカマ花壇での調査表が届きました。前年の 3.42 倍の飛来だったそうです。『今年のアサギマダラは小型の個体が多いね』と話し合っていた矢先だったので、産卵数が多すぎて食草不足になった可能性があると考えています。

2021年春 アサギマダラの「吉木浜」への立寄数												
月	日	時	分	気温	天気	風速	頭数				備考	
							21年	20年	19年	18年		
5	1	10	0	22	晴	3	2	0	初見	
5	2	雨	1	風強し	
5	3	10	30	25	晴	2	3	0		
5	4	11	30	23	曇	2	5	0		
5	5	12	45	23	晴	3	10	1	...	1		
5	6	8	10	18	晴	0	50	1	1	0		
5	7	11	30	24	晴	2	30	0	0	...		
5	8	6	0	17	曇	0	30	1	1	0		
5	9	7	30	21	曇	4	25	1	1	0		
5	10	8	0	26	晴	1	30	2	1	0		
5	11	10	30	24	曇	3	8	10	6	0		
5	12	8	30	17	小雨	3	7	1	8	4		
5	13	11	30	22	曇	2	15	3	6	8		
5	14	8	30	24	晴	2	40	2	4	12		
5	15	7	30	22	小雨	2	60	2	16	10		
5	16	8	0	30	晴	1	70	5	40	16		
5	17	7	30	24	曇	3	40	4	50	30		
5	18	7	30	18	小雨	0	60	6	30	20		
5	19	9	0	22	晴	0	40	0	20	0		
5	20	8	10	18	小雨	0	30	3	70	0		
5	21	6	30	18	曇	4	1	1	20	...		
5	22	8	0	22	晴	2	5	1	20	10		
5	23	7	30	24	晴	1	15	4	20	...		
5	24	7	0	21	雨	0	12	2	6	100		
5	25	7	30	22	晴	1	11	16	3	30		
5	26	7	0	20	晴	1	20	30	5	30		
5	27	8	0	17	曇	1	22	3	8	40		
5	28	7	40	22	晴	2	30	15	6	20		
5	29	7	40	23	晴	4	4	5	7	12		
5	30	7	40	24	晴	2	40	8	2	20		
5	31	7	40	20	晴	1	25	11	1	7		
6	1	10	15	27	晴	2	0	30	1	8		
6	2	10	30	28	晴	2	2	2	0	7		
6	3	7	0	20	小雨	1	4	16	1	4		
6	4	16	15	22	曇	2	2	16	0	1		
6	5	8	45	21	曇	2	1	5	0	...		
6	6	8	0	21	晴	0	0	4	2	2		
6	7	6	30	19	晴	1	0	1	0	4		
6	8	2	0	5		
6	9	1	0	2		
6	10	7	0	1		
6	11	3		
6	12	5	...	0		
6	13	0	1			
							合計	749	230	356	406	
							21年÷20年=3.3	21年÷19年=2.1		21年÷18年=1.9		

前原勇司代表から、フジバカマ花壇での定点調査が終わった後にいただいた表です。『フジバカマの栽培面積は増やしていない』との補記がありました。

2021年秋 アサギマダラの「さとランド・小局園」への立寄数									
月	日	時	分	気温	天気	頭数	昨年	姫島	備考
9	11	11	30	25	曇	1	
9	12	9	0	25	曇	1	
9	16	10	0	26	晴	1	
9	20	10	0	27	晴	1	
9	23	11	40	32	晴	1	
9	24	10	30	23	晴	2	
9	25	10	30	26	晴	1	
9	26	10	0	25	晴	2	
9	27	10	10	24	晴	1	
9	28	9	50	25	曇	1	..	1	
9	29	8	46	25	晴	4	2	2	
9	30	10	46	28	晴	10	2	2	
10	1	10	0	26	晴	7	2	5	
10	2	11	40	27	晴	7	0	6	
10	3	15	0	27	晴	15	2	7	
10	4	16	0	24	晴	18	2	10	
10	5	16	20	23	晴	25	1	25	
10	6	15	30	24	晴	35	5	..	
10	7	16	10	23	晴	60	7	30	
10	8	8	20	23	晴	50	4	..	
10	9	13	20	26	晴	40	10	..	
10	10	14	50	26	晴	55	10	..	
10	11	9	45	27	晴	80	15	..	
10	12	9	0	25	曇	120	18	..	
10	13	10	10	23	曇	120	13	..	
10	14	10	10	23	晴	100	16	50	
10	15	9	20	22	晴	120	40	105	
10	16	9	0	20	曇	80	40	..	
10	17	8	30	19	曇	30	20	..	
10	18	10	0	19	晴	120	40	170	
10	19	11	20	19	晴	170	45	170	
10	20	11	30	17	晴	80	40	150	
10	21	16	0	18	曇	150	40	140	
10	22	14	30	18	晴	150	
10	23	9	0	19	晴	130	10	..	
10	24	10	0	18	晴	100	50	80	
10	25	10	20	18	曇	80	40	..	
10	26	9	10	18	曇	60	20	30	
10	27	10	40	20	晴	50	25	20	
10	28	9	55	19	晴	40	30	15	
10	29	9	0	18	晴	20	30	..	
10	30	10	0	18	晴	35	20	..	
10	31	9	40	20	晴	30	20	..	
11	1	10	0	21	晴	20	17	10	
11	2	11	25	20	晴	27	
11	3	11	15	18	晴	20	5	..	
11	4	10	30	17	晴	10	4	..	
11	5	10	0	20	晴	10	10	..	
11	6	10	30	16	曇	5	7	..	
11	7	9	30	18	晴	10	3	..	
11	8	11	50	20	晴	6	4	..	
11	9	9	30	13	小雨	0	2	..	
11	10	雨	..	1	..	
11	11	1	..	
11	12	1	..	
11	13	1	..	
11	14	1	..	
						年	21	20	
						合計	2311	676	
(21年)÷(20年)=3.42									

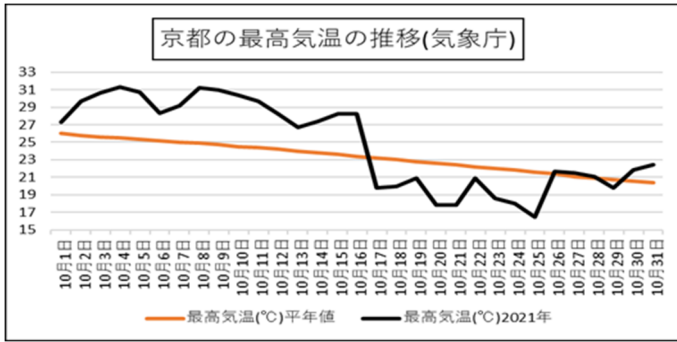
下の表は、京都西山での標識数をグラフにしたものですが、飛来のピークは10月13日にあります。それより数日遅れて、福岡県の岡垣町では10月19日ごろからピークを迎えています。アサギマダラが同期して移動しているのが分かるでしょう。定点調査だから言えるアサギマダラの生態の一部なのです。



京都西山の小さなフジバカマ花壇には、9月14日に、この秋第一号の飛来があり、11月4日が最終飛来でした。その間には飛来のない日もありましたが、根気よく最後まで見極めたその成果のグラフです。

京都西山→他の地			
NO	日付	記号	再捕獲地
1	9月29日	KN 9.25 XX31	兵庫県宝塚市南口2丁目
2	10月1日	KN 9.25 XX 19	鹿児島県大島郡喜界町
3	10月2日	KN 10.2 XX 104	三重県いなべ市
4	10月4日	KN 10.2 XX 148	兵庫県宝塚市末広町
5	10月6日	KN 9.25 XX 24	広島県三次市作木町森
6	10月8日	KN 9.24 XX 56	広島県三次市作木町森
7	10月8日	KN 10.8 HX 67	兵庫県淡路市
8	10月9日	KN 10.6 XX 187	神戸市灘区摩耶山
9	10月13日	KN 10.13 キョウト HX 25	兵庫県宝塚市南口2丁目 (
10	10月14日	KN 10.2 XX 105	兵庫県宝塚市弥生町
11	10月14日	KN 10.12 XX 268	京都市左京区大原
12	10月14日	KN 10.6 XX 187	神戸市灘区摩耶山町
13	10月15日	K.N10.1XX235	滋賀県大津市柳が崎びわ湖大津館
14	10月15日	KN 10.13 キョウト HX 25	兵庫県宝塚市南口
15	10月17日	KN 9.28 XX79	広島県呉市莊山田村
16	10月19日	KN 10.6 XX 187	高知県室戸市
17	10月21日	KN 10.15 MK 34	兵庫県宝塚市小浜1丁目
18	10月23日	KN 10.14 XX 347	兵庫県神戸市東灘
19	10月24日	KN 10.24 MK80	愛媛県南宇和郡愛南町
20	10月26日	KN 10.14 XX 322	高知県土佐清水市
20÷670×100=2.99%			北上して再捕獲

上の表は、京都西山で標識したアサギマダラが、他の地で再捕獲されたものの一覧表です。平年ですと淡路島・徳島・高知を通して室戸岬や足摺岬の辺りから海上に出るルートが賑わうのですが、今年は中国地方経由で四国や九州を通して海に出た個体が多かったように思われます。



次は、京都の秋の**最高気温の推移**ですが、10月16日までは真夏日や夏日が続いておりましたが、10月17日には、一挙に8°Cも下がって10月25日まで低温の日が続きました。この低温期がアサギマダラの南下を促したらしく、京都西山での標識数は目に見えて減ってゆきました。四国での再捕獲が少ないのを不思議に思い問い合わせたところ、アサギマダラの会々長:大原賢二さんは、『高い山地には沢山来ているから・・・』と言っておられましたが、気温低下後は四国の平地や低山地での再捕獲が一挙に増えました。また、南下を渋って中国地方を西へと移動していたアサギマダラも、より南へと進路を変えて、四国や九州が賑わうのが見られました。

→ 京都西山で再捕獲				
NO	日付	記号	標識地	再標識
1	9月21日	カラク mit 9/21 3003	群馬県中之条町入山 中之条山の庭園	村島光
2	9月25日	白山 9.16AN781	石川県白山市瀬戸「アサギマダラ空の駅・白山」	KN9.25XX 37
3	9月30日	白山 9.23 yasu 158	石川県白山市瀬戸「アサギマダラ空の駅・白山」	KN9.30XX 99
4	10月8日	YWA 720 M 10.4	兵庫県宝塚市武庫川河川敷	KN10.8XX223
5	10月9日	白山 9.18 C(?)TY 39	石川県白山市瀬戸「アサギマダラ空の駅・白山」	RNK10.9MK25
6	10月13日	白山 10/1 HGH 685	石川県白山市瀬戸「アサギマダラ空の駅・白山」	記載なし・村島光
7	10月15日	YWA 720 M 10.4	兵庫県宝塚市武庫川河川敷	KN10.8XX 223
8	10月15日	KMR 9.22 SGR +デコ8.31H	福島県耶麻郡グランデコススキー場	なし
9	10月15日	アヤ 9/28 KHA 881	京都府綾部市戸奈瀬町	KN 10.14 XX 360
10	10月18日	UTU 9.7 FTT 388	長野県松本市 美ヶ原林道	KN10.18XX 434
11	10月18日	YWA 1549 MA 10.10	兵庫県宝塚市武庫川河川敷	KN10.19XX 456
12	10月21日	アヤ 10.2 KHA 1326	京都府綾部市戸奈瀬町	KN10.21XX461
				12÷670×100=1.79%
				北上して再捕獲

他の地で標識されて、京都西山で再捕獲されたアサギマダラは12頭ありましたが、その中には北上して再捕獲された個体が3頭もありました。気温が高い夏の間は、わりと奔法にウロウロするのが知られていますが、例年だと南下が終わった10月の事例なので違和感を覚えます。地球温暖化がさらに進むと、どうなっていくのでしょうか。

岡垣アサギマダラの会は、福岡県遠賀郡岡垣町にあり、Google Earthで見ると、北辺は東西に長い砂浜が響灘に面していて、汐入川から東に200mの位置に『旅する蝶々 アサギマダラの立寄所』の表示があります。市街地と海岸は松の木の間で隔てられており、砂浜にはスナビキソウを保護増殖している囲いも認め

られ、自然度が高そうです。秋の観察拠点であるフジバカマ花壇は、内陸部の『さとランド・小局園』にあり、作付面積は昨年と変わっていないそうです。この会が創設されたのが2018年であり、今年は春のスナビキソウに飛来したアサギマダラの記録表

『2021年 アサギマダラの「吉木浜」への立寄数』と『2021年秋 アサギマダラの「さとランド・小局園」への立寄数』が公開されました。

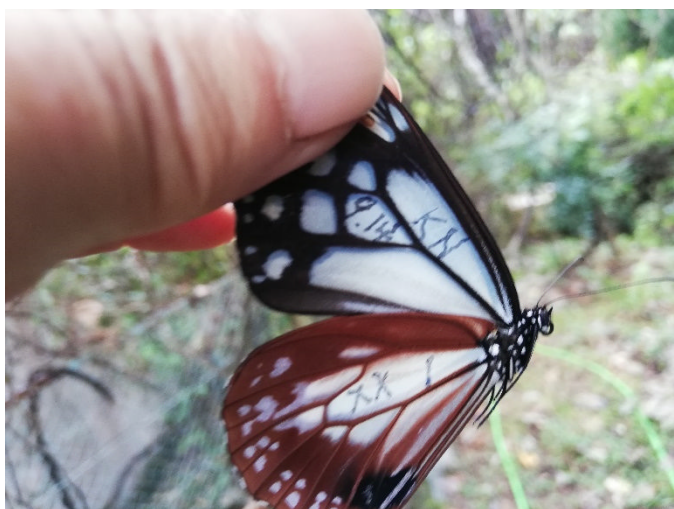
私が注目したのは、表の下方欄外に記された前年対比の飛来の多さです。もう一度書きますが、春は3.3倍とあり、秋は3.42倍とありますが、**定点調査**ならではの説得力のある統計です。

さて、大枝アサギマダラの会は、来年の調査に備えて栽培面積倍増計画を進めています。植栽するフジバカマの種類は3種で、まず京都自生種は時期をずらして3回に分けて剪定します。次を担うのが園芸品種のコバノフジバカマです。その後は山口県自生種のフジバカマで、11月初旬までカバー出来そうです。念のため山口県産のヤマヒヨドリバナも数本植えますが、花期は11月中旬まで咲き続けるので、さらに温暖化が進み、南下が遅れたアサギマダラにも対応出来そうです。

この地に吹く風の特徴も大分分かってきました。花の香りがどのようにして、森の中を南下するアサギマダラに届くのか、報告できるまでに**定点観測**が進むといいなと思っています。



標高180mのこの高台からは、雲の動きや柿畑の柿の葉のそよぎ、九社神社の杜の高木のこぶえの動きなど、風の動向を知る情報が数多く見て取れます。斜面上昇風は、目には見えませんが、身体で感じることもあり、来年を楽しみに待っています。



KN(京都西山)で9月14日に標識した金田(XX)の第一号



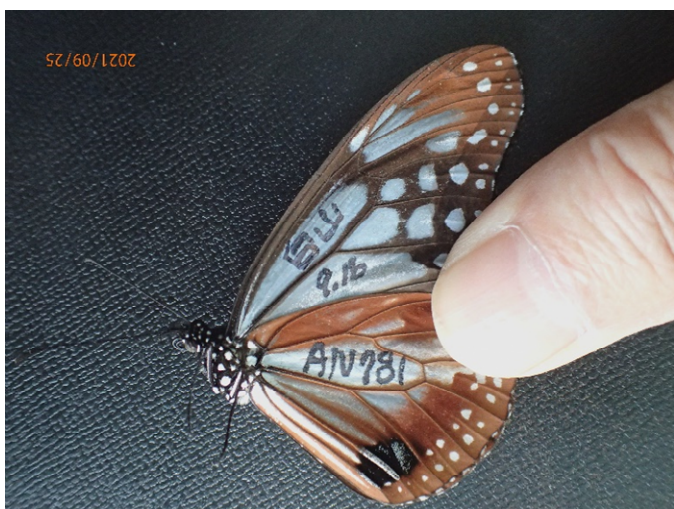
福島県の裏磐梯、デコ平で標識された個体



この秋はメスの比率が高い。(11.3%)



兵庫県宝塚市武庫川河川敷で標識され、北上してきた個体



石川県白山市で標識された個体・白山 9.16AN781



松永かすみさんは、優しく声をかけて、指でつまんで標識する、『おつまみマーキング』の名手です。

(2021年11月・金田 忍 記)